

## 5. ワクチン接種採卵鶏にみられた皮膚型鶏痘

1 兵庫県和田山家畜保健衛生所、2 兵庫県姫路家畜保健衛生所

○瀧麻香<sup>1</sup>、加茂前仁弥<sup>2</sup>、寺谷知恵<sup>1</sup>、三木隆広<sup>1</sup>

鶏痘は鶏痘ウイルス（FPV）による疾病であり、皮膚や粘膜の発痘を特徴とし、皮膚型・粘膜型に分類される。鶏痘はワクチン接種により予防されてきたが、近年ワクチン接種鶏群での発生が認められる。多くの FPV 野外株の遺伝子には細網内皮症ウイルス（REV）遺伝子の挿入がみられ、REV 遺伝子と FPV の病原性の関連を示唆する報告もあるが、明らかにはされていない。今回、ワクチン接種採卵鶏に皮膚型鶏痘が発生したため報告する。

2016年3月下旬、約8万羽飼養の採卵鶏農場の1鶏群（470日齢、約18,000羽）の約1割で、鶏冠、眼瞼などの無羽部に発痘が認められた。発症鶏群は誘導換羽後であり、発症鶏には多数のワクモが確認された。周辺農場での鶏痘発生はなかった。

発痘部皮膚を用いて病理組織検査、発育鶏卵接種試験及び FPV、REV を対象とした遺伝子検査を行った。病理組織検査では、有棘細胞の腫大・増生及び細胞質内のボリンゲル小体が認められた。発育鶏卵接種試験では漿尿膜にポックの形成が確認され、遺伝子検査では FPV 及び REV 特異的な遺伝子がそれぞれ検出された。

以上より、本症例を皮膚型鶏痘と診断し、FPV への REV 遺伝子の挿入が明らかになった。本症例は誘導換羽後の鶏群のみで発生し、発症鶏にワクモが認められたことから、ストレスにより免疫力が低下した個体が発症したと推察され、REV 遺伝子が発症の主要因となった可能性は低いと考える。当該農場のワクモ駆除を行ったところ新たな発生はない。